

## 「グリーンスクール」表彰式

### 1 表彰の目的

環境教育の一層の推進を図るため、環境保全活動など実践的環境教育を積極的に推進する活動において、特色ある優れた実践を行っている学校をグリーンスクールとして表彰することにより、環境への意識の高揚を図ることを目的としている。

### 2 表彰の対象

次のような県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校を表彰の対象としている。

- 学校、地域環境を活用し、総合的に体験活動や学習に取り組み、環境教育に成果をあげている学校
- 持続可能な社会の形成に向けて、リサイクルやゴミ問題などの環境問題について積極的に学習に取り組み、児童生徒の環境に対する意識の高揚に成果をあげている学校
- 地域の希少生物やその生息地域等の保護活動に学校をあげて長期的に取り組むなど、自然保護活動に成果をあげている学校



グリーンスクールフラッグ

### □ 受賞校一覧

#### (1) 令和元年度グリーンスクール表彰校 9校

〔小学校6校〕	三田市立弥生小学校	朝来市立糸井小学校
	香美町立余部小学校	新温泉町立浜坂南小学校
	丹波市立新井小学校	南あわじ市立三原志知小学校
〔中学校1校〕	姫路市立坊勢中学校	
〔高等学校2校〕	兵庫県立尼崎小田高等学校	兵庫県立山崎高等学校

#### (2) 令和元年度グリーンスクール奨励賞表彰校 3校

〔小学校2校〕	洲本市立洲本第一小学校	洲本市立広石小学校
〔特別支援学校1校〕	兵庫県立いなみ野特別支援学校	

## □ 令和元年度グリーンスクール表彰校の取組（9校）

### （1）三田市立弥生（やよい）小学校

#### 「ふるさと『弥生』 深田公園とともに育まれる子どもたち」

「深田公園」という共通のテーマのもと、生き物調べから始まり、人と自然の共生、公園活性プロジェクトへと系統的に取り組み、都市型公園の在り方や環境保全について、校区にある県立人と自然の博物館と連携し、研究員の助言をもとに探究活動を行っている。また、調べたことについて、高学年からのアドバイスをもとに資料をバージョンアップしたり、その内容について下学年に発表したりするなど、異学年交流も積極的に行っており、ふるさと「弥生」を意識することにつながっている。



### （2）朝来市立糸井（いとい）小学校

#### 「夢を持ち、ふるさと『糸井』再発見」

低学年の学校園でのサツマイモ栽培を起点に、糸井川の水生生物の生態調べや野鳥の観察等を通して自然環境について関心を深めるとともに、人と野生生物との共生について学んでいる。また、地域と連携し、無農薬、天日干しでの米作り等、環境への配慮につながる体験活動にも取り組んでいる。このような取組から、地域のすばらしさに気づくとともに、主体的に地域の持続発展につながる活動を行おうとする心と態度が育まれている。



### （3）香美町立余部（あまるべ）小学校

#### 「余部の自然について学び、大切に守っていこう！」

1・2年生では本校・分校のまわりの自然観察を通して、実りの秋を体感し、自然の恵みに感謝する心を育てている。3・4年生ではフィールドを水辺に移し、ワカメ刈り体験や水生生物調査から、海と川の関係性を知り、美しい川、豊かな海を守っていこうとする態度を育成している。5・6年生では「アセビ谷罎穴（おうけつ）群」や「平家カブラ」等、地域の自然の魅力をボランティアガイドとして観光客に紹介する活動を行うなど、発達段階に応じた体験活動を通して、学校全体として自然を大切にしようとする態度を育む取組を展開している。



### （4）新温泉町立浜坂南（はまさかみなみ）小学校

#### 「大好き！私たちの町 大庭」

絶滅寸前となったバイカモ（梅花藻）を保護するため、「田君川バイカモ保存会」とともに、3年生を中心に、主に総合的な学習の時間を活用して、①調べ学習、②観察、③植え付け作業、④岸田川での水質調査等を行っている。また、川の水生物調査や、岸田川クリーン作戦も行い、環境保全に努めている。これらの活動を通して、環境を守るために多くの人たちの苦労や努力を学ぶとともに、大庭の自然を自分たちで守っていこうという意識が高まっている。



#### (5) 丹波市立新井（にい）小学校

##### 「あかつき探検隊～新井の自然を守り、育てる～」

学校の裏山（あかつき山）の教育的価値を見直し、継続的な里山整備事業を進めている。シイタケ栽培を通して、3年生では、あかつき山が栽培に適した環境であることを学ぶとともに、勤労的な体験や食育と関連づけた「シイタケの菌打ち原木移動作業」を全校生で行っている。また4年生では、校区に流れる竹安川の水質について調べる学習を通して、地域住民への水質保全の啓発活動として看板を作成し公民館に設置するなど、自分たちにできることを考えて活動している。



#### (6) 南あわじ市三原志知（みはらしち）小学校

##### 「地域の自然を調べ、守ろう」

地域資源を活用した環境体験学習を多く取り入れている。1・2年生ではサツマイモ栽培、3・4年生では大学と連携した米づくりや動植物観察、5・6年生ではまとめとして大日川の生き物調査や環境調査を行っており、地域の特徴を生かした学習に全校で取り組んでいる。また、大日川の清掃活動では、児童自ら作成したポスターを地域に掲示するなど、環境保全に関する意識を高め、地域を大切にすることを育んでいる。



#### (7) 姫路市立坊勢（ぼうぜ）中学校

##### 「自分たちで守ろう！ ふるさと坊勢の自然と環境」

「自然豊かなふるさと坊勢」を次世代に残そうという気運が高まり、全校生徒、保護者で鳥ヶ内浜海水浴場及び周辺の清掃活動に取り組んでいる。この活動を通して、美しい景観を保つことの大切さを学び、ふるさとを大切にしていこうとする思いがさらに強まっている。今後、現在世界的な環境問題となっている「海洋プラスチック」と漁獲量との関係について学習に取り組むなど、坊勢の漁業への貢献につなげていこうとしている。



#### (8) 兵庫県立尼崎小田（あまがさきおだ）高等学校

##### 「瀬戸内海の環境を考える－高校生フォーラム（サミット）開催－」

尼崎港の環境調査と再生の取組から、地元の海や運河への関心を持つことにつながり、研究意識の向上にもつながっている。また、高校生フォーラムを開催し、瀬戸内海の環境について研究している他の高校生と情報共有することで、研究を一つの学校のものに終わらせることなく、視野の広がりや深まりが生まれ、コミュニケーション力も育成されている。これらの研究成果について、地元の環境イベント等に参加し、発表・提案することにより、尼崎港や尼崎運河の環境問題及び再生について、地域の関心を高めることに貢献している。



### (9) 県立山崎（やまさき）高等学校

#### 「地域でつながる環境教育と木育活動～産・官・学連携で学ぶ～」

森林環境科学科の生徒が地域交流と木育活動の一環として、地域や行政と連携し「夏休み子どもくらしのセミナー」を開講し、間伐材に触れる機会を設け、生徒主体の授業を通して、環境の大切さと保全の意味を伝えている。また森林資源の活用と山崎断層を有する地域の災害に備えた丸太ストーブの普及活動にも取り組んでいる。これら地域の民有林、学校演習林の環境整備から「伐って、使って、植えて、育てる」環境保全の必要性を学ぶとともに、広報誌や新聞などのメディアを通して、森林環境保全の意義と林業のつながりを伝えている。



### □ 令和元年度グリーンスクール奨励賞表彰校の取組（3校）

#### (1) 洲本市立洲本第一（すもとだいいち）小学校

##### 「うみ、やま、まち ～ふるさとを愛し、つながる すいちっ子～」

「うみ」の環境体験学習は21年間続いており、ヒラメの稚魚放流・蛸壺漁・地引網漁体験を通して、海洋生物の生態系や水質保全について知識を広げ、持続可能な社会の実現に目を向けている。また、海岸清掃後にゴミ問題や3R活動について話し合う課題解決学習にも取り組んでいる。さらに、「まち」にも目を向け、「お花畑プロジェクト」による景観美化活動を行うことで、社会貢献できる喜びや自分にできるボランティア活動の芽を育んでいる。



#### (2) 洲本市立広石（ひろいし）小学校

##### 「米づくりを通じた『食』と『環境』からの学び」

30年以上にわたって地域住民と協同して米づくりに取り組んでおり、米づくりに関する一連の活動を通して、自然環境や気候との密接な関係を体験的に学んでいる。また、生産した「米」を塩むすびにし、「1. 17集会」において地域住民、保護者とともにいただくことで、防災教育にもつなげている。「食」の問題を通じて世界的な環境問題にも目を向け、地球全体の環境保全に自ら関与できる心を育もうとしている。



#### (3) 兵庫県立いなみ野（いなみの）特別支援学校

##### 「秋のみのりを体感する」

地元のライオンズクラブと協力し、サツマイモの芋掘りと焼き芋づくりを小学部が体験している。事前に食に関する絵本の読み聞かせをすることで、自然環境を意識した指導につながっている。実際の芋掘りにおいては、土の手触りやにおい、小さな生き物の発見など、体全体で自然を感じている。学校で収穫した物を家庭に持ち帰ることで、土に触れる喜びや収穫物を手にした感動を家庭と共有することにより、家庭においても自然環境に関心をもたせる機会となっている。

